

令和元年度第2回高梁市公共交通会議議事録（要旨）

日時：令和元年11月27日（水）11：00～12：00

場所：高梁市役所 3F 大会議室1

資料：・会議次第、委員名簿、席次表

・第2回高梁市公共交通会議資料

(仮称)第2次高梁市地域公共交通網形成計画の策定について…資料1

- ・現行計画の検証、課題
- ・(仮称)2次計画の骨子(案)
- ・(仮称)2次計画の事業(案)

1. 開 会

会議成立報告

2. 役員の互選について

会長 藤澤委員（高梁市副市長）

副会長 村上委員（備中地域まちづくり協議会会長）

3. 会長あいさつ

藤澤会長

4. 議 事

- ・(仮称)第2次高梁市地域公共交通網形成計画の策定について
 - ・現行計画の検証、課題
 - ・(仮称)2次計画の骨子(案)
 - ・(仮称)2次計画の事業(案)

（事務局説明）資料1

（質疑・意見等）

新屋委員：路線バス→福祉バス→乗合タクシーと輸送の土台を代えていく中であって、人口が減少している以上、利用率を増やすのは限界がある。事業として成り立っていないなかでどう取り組んで行くかを5年間見てきたが、人口が減りすぎて限界集落、崩壊集落のようになっている地域を公共交通空白地域と位置付けて、乗合タクシーを運行しても利用率の向上には繋がらないのではないかと。限界集落、崩壊集落の位置付けをはっきりして、市がどれだけ交通網を守っていくことができるかを明確に示す必要がある。

労働者の立場で言うと、バスからタクシーに変換しても、1人の人間を運ぶために1人の労働者を確保していくことは無理がある。県内で2種の免許の取得率がどこまで下がっているか、産業として魅力がなくなって交通産業に就職しようとする若者がいない時代になっている。タクシーで補うと言う計画の土台が無理なら見直した方がよいのではないかと。

ここまでのインフラを整備していくという内容を明確化して、代金を上げていくような変換を求めた方がよいのではないか。

全国的にみても人口が減っている広範囲の自治体で高梁市ほど公共交通を維持できている市町村は例がない。立派な事だがいつかは限界がくるので、将来的に人が住まなくなる場所を明確化して、人が住んでいるところに対してインフラを整備していくというような事業計画に変えていく時期になっている。

事務局：どこまでのインフラを整備するかということで、タクシーの活用ということも提案させていただいた。バスですべてのインフラをまかなえないので必要な時に活用できるタクシーは一つのツールであると思っている。雇用の確保の問題についてもその通りだと思っている。助成制度等で対応ができればと考えている。

山本委員：川上町の地域の座談会で高齢者の運転免許返納が話題になった。返納したいが返納すると住み慣れた今の地域で住んでいくことができなくなる。なんとか良い案がないかという話だった。福祉関係でも色々な事ができていて、この住み慣れた地域で生涯を送るということを高齢者の人は望んでいる。

自動車を保有することは税金やガソリン代の面で高齢者の大きな負担になっている。すべてを公共で賄うことは難しい。高齢者が自分で負担が出来る部分をまかなってもらい、住み慣れた地域を離れなくてよい状況をつくっていただけるような知恵が必要。

政森委員：アンケートや地元の声を聞いていくなかで、人口減少だけですまされる話ではないと感じる。過疎もある、事業者の努力も必要。行政と市民が一緒になって話をしながら進める必要がある。赤字路線をどうしていくか、いろいろな意見が出るが話は進まない。利用したいけど利用できないといったこともある。委員のみなさんの意見を出し合っていないといけない。ひとつでも公共交通を利用してもらえるように地域の声をもってきてもらうのが一番だと考える。

清水委員：市民としてのいきがいも感じたい、楽しみも感じたい。そうした時にバス等を利用しているが利用が難しい。病院は医師の関係で曜日の指定があるが、バスの運行曜日と合わない事がある。乗合タクシーは前日までに申込をしておかないと乗れないので急病の時には使えない。バスは非常にありがたいのでなんとかしてバスを守ってほしい。

— 議事承認 —

5. その他

事務局：承認いただいた骨子、事業概要により詳細事項を作成し、2次計画の素案として次回公共交通会議にお諮りしたい。また、作成時に委員、専門員にご意見を求めることについて協力願いたい。

6. 閉会

村上副会長